

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504－26		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成 27年 2月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、1人1人に寄り添い、その方の思いに耳を傾け、毎日少しでも穏やかに生活し笑顔が沢山見られるよう支援しております。外出支援にも力を入れ、買い物に出掛けたり地域の方々との交流にも努めています。
また、同法人の運営する特別養護老人ホームが隣接しており、行事やサークル活動だけでなく内部研修などでも連携を深めております。長年住み慣れた地域で、交流を図りながらの暮らしが継続できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は市東部の田畑の広がる静かな地域に位置し、同法人の地域密着型小規模特別養護老人ホームが隣接している。特別養護老人ホームで開催される生花や工作などのサークル活動への参加や慰問ボランティアの演奏鑑賞などを通し、利用者同士の交流やレクリエーションの充実に努めている。地域の催しや児童館の行事等へ積極的に参加しているほか、法人的行事である春の「さつき祭」や秋の「感謝祭」などに地域住民を招待し、地域との相互交流を深めている。特別養護老人ホームと合同で各種委員会を設置し、会議や内部研修の他、外部研修への参加を促進し、サービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。【あなたの「あふれる笑顔と思い」に寄り添います】のホーム理念のもと、職員は本人本位の視点に立ち、利用者の思いに寄り添いながら、笑顔で穏やかに過ごせるような支援を心がけており、利用者はゆったりとした雰囲気の中で笑顔で生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前に、スタッフ間で作成した理念を玄関に掲げ、職員一人一人が認識して共有し、日々の介護の中で実践できるように努めている。	事業所独自のホーム理念を玄関に掲げている。職員は、利用者の笑顔を引き出せるようなサービスの提供、利用者の思いに寄り添うことを心がけ支援にあたっており、理念が実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や花いっぱい事業に参加している。塩野室児童館とは定期的な交流をしており、近隣の方から花や木になった柿を頂くこともある。	花いっぱい事業に参加し、小学生とともに沿道の花壇への植栽をしたり、児童館の運動会やハロウィンパーティー、昔遊びなどの行事に積極的に参加したりと、地域の子供達との交流の機会を設けている。また、春と秋に開催する法人の祭には家族や地域の方を招待し相互交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週3回の買い物の際には小林直売所へ一緒に出掛けている。地域の方々との交流を図りながら、認知症の方への理解や支援方法を伝え、活かしてもらっている。また、介護教室を通して認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者の生活の様子やサービス内容の状況説明・報告と同時に、参加者からも質問やご意見を頂き、サービス向上のため職員間で共有し改善に取り組んでいる。	運営推進会議は、同法人の特別養護老人ホームと合同で開催されている。市職員・児童館委員・民生委員・評議員・利用者家族が参加し積極的な意見交換がなされている。会議後は議事録を全職員に回覧して職員間で共有し、サービス向上に活かしている。	テーマを決めての会議開催を検討中とのことだが、警察や消防などの、議題に合わせた専門職の方にも参加いただく機会を設けるなど、より意義のある会議にするための取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や不明な点は直ぐに市町村に連絡し、協力関係を築くように努めていきたい。	運営推進会議での意見交換の他、市職員とは日頃から話しやすい関係ができています。地区の策定市民会議への参加を通し、地域課題の把握・共有のほか、様々な情報交換や相互交流を深め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣の特養と合同で、身体拘束・虐待の委員会を定期的に開催している。身体拘束に関するアンケートや勉強会を行っており、身体拘束への正しい知識を得られるような取組を行っている。	同法人の特別養護老人ホームと合同で各種委員会を定期的に開催し、身体拘束に関する勉強会や内外研修が充実している。職員は身体拘束にあたる行為をよく理解しており、待っていただく時には理由を説明し理解してもらうなど、声かけや言葉遣いに関しては特に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で、日常ケアの中で絶対に虐待が行われないよう、注意を払い虐待防止に努めている。また、身体拘束同様にアンケートや勉強会を行い理解を深めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験の浅い職員もあり、全職員が専門的知識について学ぶ場を設けられる様、外部研修などの学習も考えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場に立ち、丁寧な説明を行い納得された上で契約を行っている。解約や改定などがある場合も、事前に十分な説明を行い理解を得ていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や面会時、運営推進会議など幅広く意見や要望を聞ける機会を設けている。不定期だが担当職員が作成した広報誌にて、近況報告を家族に郵送し報告している。	運営推進会議の他、家族との食事を兼ねてのクリスマス会開催や、法人の祭りなど家族が参加できる行事を企画し、家族と話す機会を設けている。広報誌やブログなど様々なツールを用いた近況報告を行い情報共有し、話しやすい関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に提案や意見交換の場を設けている。また、職員同士が日常的にコミュニケーションを図れている。必要な情報は連絡ノートにより全職員が情報を共有できるようにしており、日々のケアに反映させている。	年2回個別面談を行い、職員意見を聞く機会を設けている。管理者と職員は日頃から相談しやすい関係ができている。支援に関する疑問や提案などは毎月の職員会議で話し合い、職員意見を取り入れた改善・改良に繋げている。また連絡ノートなど用いて相談や情報を共有し、日々の支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士何でも話し合える様、和やかな雰囲気作りを心掛けている。職員の日々の表情にも気を配り、有給や希望休の取得がしやすい様努めている。年2回の評価に基づき、定時昇給以外にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の能力に合ったスキルアップを図れるよう内部・外部研修への参加を促している。また、外部研修の報告を兼ねた情報提供の場を設けるなど、機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前に他のグループホームへ研修に行かせて頂いたが、それが開所後活かされていることは間違いない。伺いたい事がある際は電話にて相談させて頂いているが、交流としては機会がないので今後の課題でもある。		

グループホームひだまり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や調査の際に必ず本人と面談を行っており不安や困っていること、生活への希望などを確認し、信頼関係の構築に努めている。またサービス事業者の担当者からも情報を得て、入居者のことをより良く理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付の際や調査の際に必ず家族と面談を行い、不安や困っている事などを確認している。それと共に、事業者側が出来る事と出来ない事を説明し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や申し込みの際に、グループホームでのサービス内容の説明を行っている。必要であればフォーマルサービス・インフォーマルサービスの利用について情報提供や説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理、片付け、洗濯物たたみだけでなく、外出や買い物へ一緒に出掛け、同じ時間を過ごすことにより共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の行事や通院など家族との関わる機会を持ち、本人と家族の絆を大切にしている。また家族の面会や電話の際に、本人の状況を報告したり、本人の思いや困りごとがあれば解決策と一緒に考え一緒に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだったお店や温泉など、馴染みの人や場所との関係が途切れない様、外出支援に努めている。 面会や外出の時間も、一応の決まりはあるが面会者の都合に合わせてられる様努めている。	行きつけの美容院や野菜の直売所への買い物の他、近所の行きつけの温泉や毎日のように通っていた馴染みのコロッケ屋を訪れるなど、日頃に行けない遠方でも、今までの馴染みの習慣や関係が途絶えないよう、個別外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、座席の工夫をしている。他者と関わる事が苦手な入居者については、職員が関わりを多く持って孤立しない様支援に努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに退去となった方はいないが、サービス利用が終了しても、継続的な関わりが必要な方には関係機関との連携を密にして本人や家族の支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人に寄り添い、表情や仕草などから意思をくみ取れるよう努めている。	日頃の会話や家族への聞き取りなどから思いを把握している。また、言葉数の少ない方には居室などで一人になった時に本音を聞きだす機会を設けるなど、利用者の思いに寄り添うよう努めている。困難な場合も、表情や仕草、行動の様子等を見て思いを汲み取り、個々の意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などは、日々の生活の中で本人から伺っている。事前の調査の際、家族からも確認しており、安心して生活が送れるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状況、暮らし方や生活リズムを把握し、出来る事と出来ない事を見つけ出せるようにしている。また本人の趣味や行いたい事の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めており、定期的なモニタリングを行っている。より良く暮らすための課題、ケアの在り方などを、全職員でカンファレンスにて話し合っている。	担当職員を中心に全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行いケアプランに反映させている。毎月のモニタリングと3ヶ月ごとの短期目標、6ヶ月ごとの長期目標に沿った見直しを行い、担当職員の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残したり、その際発した言葉や会話から垣間見た気付きなども記録に残す様努めている。また、申し送りノートを活用して共通理解を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によっては通院介助の支援も行っている。また、本人の希望に対して、日用品の買い物や外食支援にも努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する特養との合同行事の際、地域のボランティアの協力を得たり、運営推進会議で意見交換などをする機会は設けている。また、地元の方々に気楽に訪問して下さるよう声掛けし促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い、すべての入居者が協力医へ変更されている。病院受診は原則として家族に依頼しているが、場合によっては施設側で協力も行っている。	協力医の定期回診が週1回ある。かかりつけ医が身近にいた方が安心できるということで、家族の意向によりすべての入居者が協力医に変更している。回診以外の病院受診や通院は原則家族にお願いしているが、遠方などで困難な場合は同行支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日々看護職員と情報を共有している。必要に応じて協力医などに相談し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった入居者はまだ居ないが、入院時は家族や病院関係者と連携をとり、早期に退院出来るよう努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでを視野に入れた施設である事の説明を家族に行い、同意を頂いている。今後、重度化や終末期の対応について、勉強会や研修への参加など職員のレベルアップを図れる様取り組みたい。	入居時に事業所の指針を説明している。新事業所のためまだ看取りの事例はないが、状態の変化に合わせた支援の相談や看取り段階での最終的な意思確認など、随時家族や医療機関との連携をとりながら、本人及び家族の意向に沿い、安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修にて救命講習を行っている。また、緊急連絡網が正しく機能するか連絡網を活用した訓練も実施しており、今後も行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、年に2回の消防訓練を実施している。それ以外にも小規模特養と合同での自主訓練や連携の確認、夜間の連絡網を活用しての訓練などを行っている。	消防署立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。通報方法や対応・避難手順の確認、夜間緊急連絡網を用いた応援職員到着までの時間検証など、実践に即した訓練を行っている。また、食料・水・カイロ・ひざ掛けなど備蓄も充実している。	職員が一人体制となる夜間想定での避難誘導訓練の導入と、避難後の安全確保など、地域の方の円滑な協力が得られるように、より具体的な地域との協力体制の構築に期待したい。

グループホームひだまり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フェイスシートや生活歴などをもとに、一人一人の人格を把握し本人に合わせた対応や言葉かけを心掛けている。プライバシーについては、入職時に守秘義務の同意書を出してもらい、個人を尊重した言葉掛けや尊敬の念を持ち対応している。	利用者も職員も下の名前に「さん」付けて呼び合うなど親しみを込めつつも、言葉遣いや声かけに気を配り、個々を尊重した対応を心がけている。トイレ誘導はそつと声かけするなどの配慮や、汚物処理も他者の目に触れない工夫をしている。個人情報はパソコン管理や書類保管の施錠など徹底し、安全対策に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して耳を傾けるよう心掛けている。本人の思いが職員間で共有出来るように「心の声ノート」を活用している。自己決定が難しい方に対しては、本人の表情や仕草から対応できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでは、自ら塗り絵を取り組まれる方や新聞、雑誌を見る方がいる。また、自室でテレビを御覧になる方、横になって休まれる方等、その方その方のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に季節毎に馴染みの洋服を持ってきて頂いたり、職員と一緒に店に行き、洋服や小物を選び着て頂いている。馴染みの理容店に家族と行く方や、ボランティアによる理美容サービスを利用し自分の好みにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が旬の食材を取り入れた献立を作成し、入居者と共に買い物に出掛けている。畑で育てた野菜を使用することもあり、皮むきなども行っている。テーブル拭き・おしぼり等の配膳や後片付けなども一緒にやっている。	調理や配膳、洗い物など利用者と一緒にやっている。敷地内の畑で育てた野菜や旬の食材を取り入れた献立を職員が考え作成している。おせち料理や節分など季節や行事に合わせた献立や、餃子やおはぎ、漬物作り、職員手作りケーキの喫茶など、食事が楽しめる工夫をしている。また、外食の機会も多く設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士に助言を頂き、バランスの良い食事が摂れるように工夫している。また、一人一人に合わせて、形態を変えたり塩分量を調整している。摂取量、水分量も随時確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けし口腔ケアを行っている。自分で行えない方は介助している。週3回、義歯洗浄剤を使用し清潔の保持にを行い、口臭のある方は洗口液を併用している。また、必要があれば家族に歯科受診の依頼を行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人からの訴えや仕草から、トイレにさりげなく誘導を行っている。また、トイレの場所がわかり易いように表示を行っており、失敗を減らせるようにしている。声を掛ける際には、プライバシーの配慮にも気を付けている。	本人の訴えや仕草などの様子を見ながら、自立している方でも必要があれば声かけし、トイレでの排泄を支援している。誘導が必要な方には個別の誘導時間の目安シートを作成し、タイミングを見てトイレにさりげなく誘導している。下剤使用の方も排便状態を把握しながら、服用量などを調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、全員でラジオ体操やリハビリ体操を行っている。また、食事や間食に牛乳やヨーグルトを提供し、便秘の解消に働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上、入浴が出来るように対応している。入浴剤を使用したり音楽をかけたりするなど、ゆっくりとリラックス出来るような工夫もしている。	週2～3回午後の時間帯を中心に個別にて入浴している。一人ずつお湯の汲み替えを行い、数種類の入浴剤から色や香りなど好みのものを選択し入浴している。また、脱衣所にラジカセを置き、ラジオや好みの音楽を流すなど、リラックスして入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はリビングでテレビを観て過ごしたり談話を楽しんでいる。一人一人の就寝時間を大切にして、本人のペースで過ごせるよう支援しており、就寝時の照明や室温の調節なども個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れのないようダブルチェックを行ったり、下剤の使用時は目安表を活用し、誤薬のないように注意している。また処方されている薬に変更があった時は、連絡ノートや申し送りにて情報を共有して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、片付け、洗濯物たたみ等個々に合わせた手伝いをして頂き、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。また、一緒に買い物へ出掛け、野菜を選んで頂いたりと楽しみを持てるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所への散歩や食材の買い物と一緒に出掛けている。また、本人の思い入れのある店や場所に、可能な限り外出出来るよう支援に努めている。	近隣の散歩や食材の買出しへ出かける他、児童館の行事や隣接する特養でのサークル活動への参加など、日常的な外出を支援している。また、地域の神社への初詣や遠方の公園などへの花見や紅葉狩り、りんご狩りなど、季節に合わせた外出の機会を多く設けている。	

グループホームひだまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームで預り金としてお小遣いを預かっており、外出や買い物にて使用している。本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、本人が支払う機会はまだない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、随時電話が出来るように支援をしている。手紙を希望される方は今のところは居ないが、希望があれば支援をしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を所々に使用し、落ち着ける色彩に配慮しており、空調などにも注意を払っている。リビングには入居者が作った貼り絵や、四季を感じ取れるものを飾ったり置いたりして、和やかな雰囲気を作っている。	木材を使用した明るく落ち着いた内装となっている。リビングから左右の居室へと続く空間は、間仕切り壁にスリットを設け、風通しがよく開放感があり、全体の様子が感じられるように工夫されている。玄関横には洗面台が設置され、感染予防や衛生面に配慮している。テーブル席の他にソファや畳スペース、カラオケ設備もあり、各々が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされる時には無理に声をかけず、自由にして頂いている。玄関前の庭先にはテーブルやベンチなどを置き、他者と話をしたり、外の景色を眺められるようにしている。また、廊下にソファを置き、一人でも過ごせるような配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家電品を持ち込んでいただいている。自分で作った作品やお孫さんとの写真などを飾ったりされる入居者もあり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	ベッド、エアコン、洗面台、壁掛時計、加湿器が備え付けられている。部屋ごとにカーテンの色を変えるなど、各部屋の個別化に配慮している。使い慣れた筆筒やテレビなどの家具、家族との思い出の品など、馴染みの物の持ち込みは自由である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけたり、居室それぞれのカーテンの色を変え認識しやすい様工夫している。トイレやリビング周りの洗面台には手の届く所にペーパータオルを置き自立して行える様工夫している。		